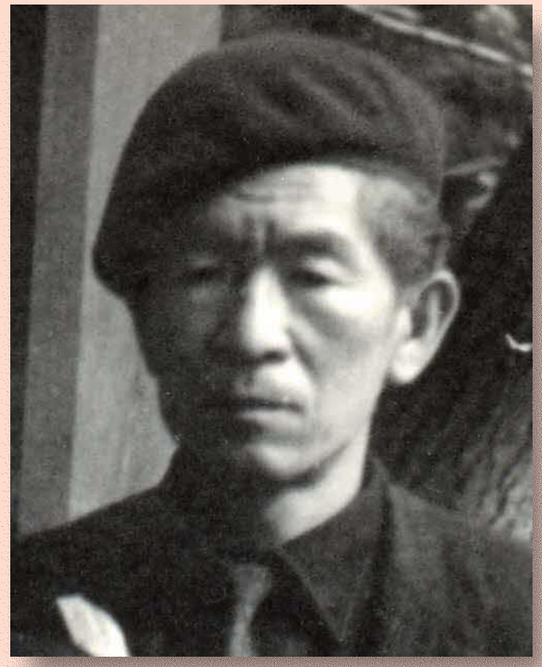
詩

今田久（いまだ ひさし）



下関市

（1908～1968）

今田久は、昭和初期日本の前衛芸術運動の中核思想となった「シュルレアリスム」及び「モダニズム」に傾倒し、生涯の詩精神の基礎が形成された。その作品は、前衛的詩人たちの活躍の場となった詩誌『二十世紀』『新領土』などに発表し、注目された。

戦後は、下関を中心に「現代詩研究会」「主題の会」など、詩研究の会において指導的役割を担った。また、復刊した『新領土』や九州の詩誌『火』などの同人として、社会的諷刺に富む作品を発表した。

（米田一二三）

【主な著作】

詩集『喜劇役者』（二〇世紀刊行所、昭和14年）